

戦旗週刊化のために

へ全員更新・一人一読者獲得を達成しよう(6月15日×切)

へ支局―分局―細胞ハタ責め戦旗機構の全面的確立を

全都、全国の同盟員同志諸君

突入は、共産党・CGT、左翼民主社会連合

ベトナム人民の不屈の闘いは、米帝国主義をいよいよよもつて窮地に陥れ入札、今や、米帝国主義は、首都サイゴンすら、防衛できな

等、既成諸政党によっておしとどめられ、秩序回復―迷等という議会主義のワクの内にとじこめられつゝあるが、しかし、フランスの五月は、疑いもなく、世界史が、巨大な激動

―

ない状況においつめられている。

の時代に入りつゝ、あることを物語るものである。

そして一方、帝国主義フランスにおいては、その帝国主義的国内統治と抑圧に抗する労働者学生

いよいよ激烈化しつゝある帝国主義的対立、それが不可避とする侵略・抑圧・反革命―

―千万労働者のほうはいとした決起は、フランス帝国主義を根底からゆるがし、且つ、その革命的熱情は、西独、伊、英等、全ヨーロッパ、全世界を激動のるつばの中にひきずりこんでいった。

パリ、サイゴンを両尖端にした全世界プロレタリアート人民の反襲―かゝる情勢をむかえうつに「帝国主義の侵略・抑圧・反革命に抗し、階級危機を世界革命へ」というスローガンを確立した同盟七回大会は、その

現在、フランス労働者学生がこの内乱への

スローガンを確立した同盟七回大会は、その

任務の全面的遂行を強く要求されている。

(一) 同盟七回大会は、党と大衆運動、党形成と階級形成、について、従来の同盟の弱点を容赦なくえぐり出した。

七回大会は、同盟の活動を、大衆運動内部における活動にのみ埋没させる傾向を断乎として批判し、運動の内からのみならず上から——すなわち、党独自の活動のもつ決定的意義を確認した。但々の階級攻勢の性格づけと斗争課題の運動論的位置づけが云々されるだけではなく、今、同盟がその独自の活動として何をなすべきか、現在、そのために、但々の斗争がどのような意味をもちているのか、同盟建設が、この闘いの鉄火の中でそのような計画性のもとに遂行されるべきか、これらとの奥の鮮明化をめぐにした斗争への介入指導は、同盟を単なる行動委員に転落させる傾向を是らんできたのであった。

(二)

同盟活動にとっての最大の桎梏となっていることは、全同志諸君が、痛感しているところである。

(三)

① 戦旗を夏季内に週刊化するためには、次の三点が六月三〇日迄に絶対に確立されなければならない。

- ①、まず第一には、支局、分局体制の確立である。支局、分局の任ムは、②ニュースの恒常的な収約と中央編集局への集中、③読者の拡大と戦旗読者会の恒常的開催、これを通しての大衆との結合の拡大、④街頭、集会等における戦旗の立売、⑤紙代の厳格な徴収と中央編集局への迅速な集中、である。
- 現在、かゝる支局、分局活動を行ないえているところは、至支局、分局数の六%にしかならない。

戦旗の週刊化を早急に行うために、編集局は各支局、分局に、六月三〇日迄に上記①②③の諸点の改善を要求する。

ところで、この同盟独自の外からの、上からの、斗争への介入。同盟の独自活動のための主要な武器は、戦旗なき闘いは、武器なき闘いと同様、無力である。

戦后不均等等発展の結果としての現代、帝國主義的対立の激化・侵略抑圧反革命が、不可避的な力をもち、激動につきすすみつつ、ある中において、同盟は一旦その武器を鍛えなければならぬ。

われわれの武器「戦旗」は、まず第一に、その内容において、七回大会決定にもとづく一貫した斗争の領導、共産主義政治の展開と革命党主体形成の指針でなければならぬ。そして、亦二に広大な階級戦線の集約としての同盟と労働者大衆との交通形態でなければならぬ。

われわれが戦旗が、この役割を果たすためには、最低限、発行の週刊化が必要不可欠となっている。はげしくござつゝある階級情勢の中にあつて、今や戦旗の旬刊ペースは

なお④部内分局に対しては、前号分の納入（そのためには、各細胞ハタ賣——後述——は分局に対して紙代の立替を行なわなければならぬ）を要求する。納入できない場合には、新号を渡さないか、又は物品の担保をとる。⑤部内の戦旗販売ルートは7月1日以降、全て手渡しとする。そのために、各分局は分局体制を強めること、⑥東京都以外については、大阪、京都、名古屋、仙台の各支局へは、干送、そのもとにある各分局以下への配布は、これより7月1日以降、手渡しとする。

⑦上記の各支局配下でない地方の分局（即ち中央直接掌握の分局）へは、中央から干送、分局配布の各細胞へは7月1日以降手渡しを行なう。⑧東京都以外の各支局は、前々号分の納入（振替にて）なしには新号の干送をうけることはできない。支局配下の各分局は、そのために前号分の納入をもって支局から新号をうけとること。細胞ハタ賣は、料金立替をもって新号をうけとること。⑨中央直接掌

権の地方各分局は、前々号の納入なしには、7月1日以降新号をうけとることは出来ない。

③なお官伝紙については、**官伝紙**の印のあるもののみを使うこと。他の部数は、全て有料として扱う。もし、有料部数が全て売り切れなければ、中央編集局、又は、各支局にもどすこと。この残紙は全て現金同様の扱いをうける。各支局は、中央編集局の承認なしには、この有料部数の残紙を処理してはならない。

②各細胞は、戦旗担当者（ハタ責）を決定し、分局、支局に、その責任者の名前を届け出ること。

ハタ責は細胞長とともに、①ニュース、記事、意見の収約と分局への集中、②戦旗の重要論文を行なうこと、③細胞で配布する紙代については、前払い又は立替をまわって行なうこと、④官伝紙は、別に、印を押して分局から手渡される。

以上、①②③の諸点をただちに実行実施す

ること。

③ 共闘紙発行をさへえる根本は、固定購読者数である。これこそ共闘紙強化の基礎であり、基礎である。そのために、④ 全同盟員が固定購読を更新すること、（但し、一七七号以后に更新した同志は除く）それから同盟員でありながら、未だ固定購読料を支払っていない同志については、直ちに滞納分一掃と更新を行なうこと。⑤ 全同盟員は、上記のことを六月十五日までに行ない、且つ、同日までに「一人一固定購読者獲得」を行なうこと。

戦旗週刊化のためには、上記一切の期日までの完全遂行とともに、中央編集局メンバーの増員が決定的に必要のポイントである。

世界革命の旗の下、パリ、サイゴンの革命的斗争に呼応し、反戦反帝斗争を一層強化発展させ、領導していくために一刻も早く戦旗週刊化をかちとろうではないか！！

戦旗を週刊化させ、それを斗争の武器にす

るためには、あえて反すうすれば、

- (一) 6月30日迄に、支局——分局——細胞ハタ責の内部村社の確立
- (二) 6月15日迄にまずへ全員更新、一人一読者獲得を完了すること（用紙同封）である。

この二つの期限内（7月1日迄）実現と一定期限内（一ヶ月の予定）の村社運営をふまえたとき、週刊化は具休化される。

追1 戦旗の財政活動の現状（危殆的な赤字）については、各支局より、口頭で近いうちに報告される。

追2 戦旗の村社について、図解すると以下の通り

おことわり ス口通№8の6頁以下の文章は愛知同争議会の意見書です。

